

これからの給食の在り方

中川 智史

小、中学校のお昼といえは給食を思い浮かべる人が多いだろう。今までの約八年間、私たちの胃袋と心を満たしてくれた。私もほぼ毎日、「早く給食にならないかな」と思っている。今はコロナ禍で黙食となっっているが、どんなメニューでもクラスの皆と食べる給食はとっても美味しく、楽しいものだ。ただ、最近好き嫌いや少食という理由で給食をほとんど

食べなかったり、多くの量の給食を早食いしたりしている人がいる。また、来年度から給食費が上がりそれに不満を持つ人もいるだろう。これからのようにして給食を食べたり給食について考えたりすれば良いだろうか。私は、どんな時代でもどんな状況になってもやはり「感謝」の気持ちをしつかり持つことが大切だと思う。実際給食一食だけでも多くの食べ物や人・物が関わっている。例えば給食で毎日出るにんじんでは、栽培する人、

出荷する人、検査する人、調理する人、そして給食を運搬する人など今挙げた中でも5人が関わっている。さらに出荷・運搬に使うトラックや調理器具も給食ができるには必要でこれらの食べ物、人、ものが一つでも欠けると給食は成り立たない。だから、給食に関わる全てに感謝するべきだと思う。

ではどうすれば給食を感謝して食べることになるのだろうか。もちろん気持ちも大切だが行動でも示せると思う。例えば「いただき

ます」「ごちそうさまでした」をはっきり言う、しっかりとよく噛んで味わって食べる、規定の量をできるだけ残さず食べ切る、などが私たちにもできると思う。また、給食費が面倒・痛手だと思いう保護者もいるとは思いますが、もつと栄養バランスの良い給食が作れることに感謝してしっかりと払ってほしい。

これから給食に感謝の思いを込めてあと約一年給食を食べていきたい。そして、給食が今後ますますと続く世の中になつてほしい。